

2010. 9

HIOKI-City <http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

vol.65

ひおき

HIOKI JOURNAL SEP.2010

主な記事

日置市総合防災訓練	2
日置市の派遣・研修・交流事業	4
外国語指導助手（ALT）の交代	8
共生・協働の地域づくり	9
まちの話題	10
市民の広場	18



突然やってくる災害

日ごろの備えがあなたを守ります



▲消防による救出訓練

「平成二十二年八月二十九日、吹上浜沖を震源とする強い地震が発生し、伊集院地域で震度5強を観測。一方、薩摩地方では大気の状態が不安定となっており、豪雨、降り始めからの雨量は多いところで400mmに達するおそれ」。

また地震による多数の家屋の倒壊や火災が発生し、豪雨によるがけ崩れや堤防の決壊などへの警戒が必要な状況下。

そのとき、あなたはどのような行動を。災害は、わたしたちの生命や財産を一瞬のうちに奪ってしまうこともあります。いざというときのために、日ごろから災害に対して十分な備えをしておきましょう。

災害時に

できることを総点検

地震や風水害などの自然災害は、いつ起こるかわかりません。日ごろから家族や、地域で防災について話し合うようにしましょう。万が一のときに冷静な行動をするためには、普段からの訓練や備えが大切です。

そのため市では、関係機関と協力しながら、かつてない大地震と豪雨が、同時に日置市を襲うという想定で八月二十九日、伊集院総合運動公園で総合防災訓練を行いました。

訓練には、関係機関十六団体が参加し、住民への避難誘導、

救出訓練、消火訓練、炊飯支援訓練などの実動訓練が実施されました。

■ 忘れたころに

やってくる災害

台風や前線などによる大雨によって毎年のように風水害、土砂災害などが発生しています。今年も、九州南部に降り続いた長雨の影響で各地に深刻な被害をもたらしました。

災害は時間や場所を選ばず、突然やってくる。

一人ひとりが防災に対する意識と知識を持ち、いざというときに備えておくことが必要です。



自衛隊資機材展示



放水訓練



車両除去訓練



炊飯支援訓練



バケツリレーでの消火訓練



避難誘導訓練

地震に備えて

地震が発生したときに備え、家の中を安全にするために、次のような対策を取りましょう。

□家具類が転倒しないように、しっかりと固定する。

□窓ガラスなどの破片が飛び散らないように、ガラス飛散防止用フィルムなどを張る。

□重量のある照明器具などは、落下しないようにチェーンなどで固定する。

□棚の上には重いものやガラス製品を置かない。

大雨などが予想されたら

□気象情報に注意する。

□避難準備をしておく。

□危険が迫ったらすぐ避難する。

日ごろからの準備

避難するときに必要なものをリュックサックなどに入れ、いつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

参加機関

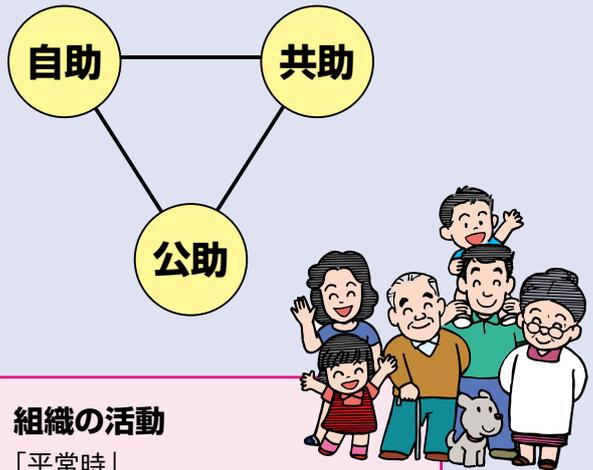
日置市、日置市消防本部、日置市消防団、陸上自衛隊第十二普通科連隊、鹿児島県防災航空センター、鹿児島県警察本部、日置警察署、九州管区警察局鹿児島県情報通信部、日置市医師会、伊集院地域自治会、日本赤十字社鹿児島県支部日置市地区日赤奉仕団、日置市社会福祉協議会、南九州コカ・コーラボトリング株式会社、南九州ペブシコラ販売株式会社、NPO法人九州救助犬協会鹿児島支部、社団法人日本自動車連盟鹿児島支部

自主防災組織をつくりましょう！

大規模な災害時には、市や消防署、消防団などの防災関係機関（公助）だけでは、ライフライン（道路など）の損壊や多数の災害発生により、十分な防災活動はできなくなることが予想されます。

「自分の身は自分で守る」（自助）ことが原則ですが、個々人がばらばらに行動すれば、地域の混乱は一層大きくなります。そんなとき、大きな力を発揮するのが、地域でつくる自主防災組織（共助）です。

結成したいが、具体的にどうしてよいか分からないとき、結成したが、活動が停滞しているときなど、積極的に市へ相談してください。また市では組織結成時やその後の活動に対し、毎年度助成（申請が必要です。詳しくはお問い合わせください。）を行っていますのでご活用ください。



災害に強い地域社会の実現を目指して

鹿児島地域自主防災組織結成促進講演会

近年、大規模な地震や地球温暖化が原因と思われる強大な台風、また集中豪雨により大きな災害が各地で発生しています。このことから、自主防災組織の結成促進を目的とした講演会が九月四日、吹上中央公民館で行われました。

講演会は、前田一郎MBCウエザーキャスターと脇昭夫県専門防災アドバイザー、瀧本浩一山口大学准教授が、それぞれの観点から、自主防災組織の必要性について話しました。



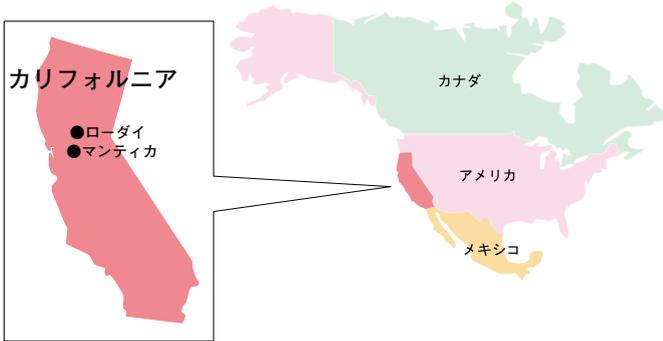
▲最近の異常気象について講演する前田一郎ウエザーキャスター

組織の活動

- 「平常時」
 - ・組織の確立・訓練の実施
 - ・知識の普及・地域の把握 など
- 「災害時」
 - ・情報の収集・避難の誘導
 - ・初期消火・給食・給水 など

お問い合わせ先 本庁総務課または各支所地域振興課

'10夏 日置市の派遣・研修・交流事業



青少年海外派遣事業

この夏、6人の中高生が一カ月間アメリカに渡り、語学や文化について学びました。国際感覚を養い、一回り大きくなって帰国した子どもたちの貴重な体験を作文で紹介します。(一部抜粋)

最高の一カ月



吹上中学校3年 宮之前 志穂さん (右から1人目)

わたしは、この夏素晴らしい体験をすることができました。出発までの一週間は「どんな家族だろう」「どんなところだろう」と不安よりも期待でいっぱいでした。わたしのホストファミリーは現地であつた先生でのお世話を下さる先生でした。家に帰ってみると三人の子どもたちが待っていてくれてとても歓迎してくれました。

八月四日はサンフランシスコに行きました。最初にゴールデンゲートブリッジに行きました。とても寒かったです。

八月十日はカリフォルニア州都のサクラメントに行きました。州議事堂に入るには飛行機と同じようなセキュリティチェックが必要でした。アーノ

ルドシユワルツネツガの部屋の前まで行くことができました。八月十三日はカーウォッシュをしました。ホストファミリーや近所の人、通りかかった人など八十台もの車を洗いました。

八月二十四日はサヨナラパーティでした。午前中は準備を一生懸命頑張つて午後六時から始まりました。最初はゲームなどして楽しい雰囲気でしたが後半はとても感動的でした。

一カ月を振り返ってみると無駄な日は一日もなくて本当に素晴らしい一カ月でした。

このような体験をできたのは両親や日置市のおかげだと思います。最高の夏休みをありがとうございました。

「Are you Kanon?」



伊集院北中学校1年 木場 佳音さん

「アーユーカノン？」ホス

トファミリーと初めて話した言葉だ。わたしは何と答えたのか覚えていない。緊張のあまり。

わたしは、この夏アメリカでのホームステイに挑戦した。海外に行くのは初めて。

わたしはアメリカで二つの家族にお世話になった。最初の十日間は東京の女の子と一緒にハスケルさんの家族。同じ年のメロディやメロディのお姉さんも一緒に住んでいて、とてもにぎやかな家族だった。残りの十六日間は、エクスさん家族にお世話になった。今度は、一人でのホームステイだ。

わたしがこの一カ月間で一番心に残ったのは、優しさだった。わたしがさびしい思いをしないうちに声をかけてくれたパパとママ。アメリカの思い出をたくさん作ってやろうと、いろいろなところへ連れていってくれたパパやママ。英語でうまくしゃべれないわたしに、ニコニコ笑いながらいたづらを仕かけてくれるメロディ。

わたしは、みんなの優しさに守られて、みんなの温かさに助けられて、初めてホームステイを終えることができた。言葉の不自由がない、守ってくれる家族がいる。そんな当たり前の生活では気づかなかつたことに気

付かされた一カ月だった。
 今回の海外派遣事業に参加させていただき、貴重な体験をさせてもらった。この経験を無駄にせず、これからの生活に生かしていきたい。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

海外派遣を通じて



伊集院高等学校2年 山下 真世さん

わたしは、この海外派遣を通じて学んだことが三つあります。一つ目は、人の優しさについてです。アメリカと日本は遠く離れています。そして、文化も言語も違います。異文化の世界にたった一人で飛び込んでいったわたしにホストファミリーはとても優しく接してくれました。英語が分からないわたしにゆつくりしゃべってくれたり、

辞書を片手に分かりやすい英単語を使ったりと、人の優しさを肌で感じました。

二つ目はあいさつです。アメリカでは、見知らぬ人でも目が合うと「ハイ！ハー！ユー？」と声をかけます。日本人はどうでしょうか。目が合っても知らん顔。それが普通でした。しかし、アメリカは違います。あいさつをするのが普通であって、あいさつをしないのが考えられないことなんです。わたしもあいさつは大事だと思います。

三つ目は感謝です。このプログラムに参加できたのも母のおかげです。そしてアメリカで楽しく過ごせたのも、アメリカの家族のおかげです。すべての人に感謝することがたくさんあります。毎日感謝することを忘れずに、日々を大切にして生きていくことを学びました。

このプログラムに参加して、精神的にも成長し、目標であった自立心の向上もはかれたと思います。

次からは、このプログラムに参加したことをどのように生かしていくかということを中心に考えて生活していきたいです。

お母さん、アメリカの家族に心から感謝したいです。

マレーシア親善大使派遣事業

7 / 29 ~ 8 / 5

ずつつながる心と心の交流

マレーシアとの友好親善と国際理解を深めるこの事業は、十二年目を迎え、今年は六人(高校生三人、一般三人)の親善大使が派遣されました。

七月二十九日早朝、国際交流員のワンさんとともに、日置市を出発した大使は、マレーシアの首都クアラルンプールに到着後、スパン・ジャヤ市役所を表敬訪問しました。

その後、日本に国際留学した元留学生で組織するALEPS (アレプス)のメンバー宅で歓迎・対面式が行われ、三泊四

日のホームステイが始まりました。

五日目には、在マレーシア日本大使館訪問、シーフィールド小学校での文化交流会では、伝統の踊りが披露され、大使も負けじとマレーシアダンスと吹上音頭を披露しました。

またマラッカやクアラルンプールの見学も行い、マレーシアの文化や習慣などをたっぷり体感しました。



マレーシア親善大使
 派遣事業に参加して
 徳田綾美さん (伊集院)



▲ホームステイ先の家族と撮影する徳田綾美さん (写真中央)

今回の派遣事業に参加して、初めてホームステイという貴重な経験をしました。イスラム教という宗教の違いやマレーシアの文化と日本の文化の違いを実際に肌で感じることができ、言葉が通じない中でお互いに理解し合おうと努力しました。

マレーシアでの経験から国際交流に対して非常に大きな自信を持てました。

自分自身の将来の目標に向けて、今後の国際交流活動の第一歩にしたいです。

他人と協力する大切さ学ぶ

青少年リーダー研修「チャレンジいおう島」が七月二十七日から三泊四日の日程で行われました。

研修には、市内の小学五年生から中学三年生までの児童、生徒四十人が参加、離島での自然体験や野外活動、異年齢集団による共同生活を行いました。今年度は天候に悩まされたが、子どもたちは元気に硫黄島の名所や歴史探訪など島内探検に臨みました。



西アフリカに伝わる伝統打楽器「ジャンベ」体験は、スクールの先生の指導のもと、短時間にみんなで演奏できるようになりました。

炊飯活動では「初めて火をつけることができて、とつてもうれしかった」と子どもたち。回を重ねるごとに火おこしや調理が早くできるよきるようになりました。



▲みんなで演奏した「ジャンベ」体験



▲雨の中の島内巡り



▲平家城跡を見学する児童

二日目の夜は、テントが吹き飛びそうなほどの豪雨と強風が襲い、島の自然の脅威も感じた貴重な体験でした。

また最終日の夜は、キャンプファイヤーができずにキャンプルサービスとなりましたが、各班で工夫を凝らした出し物が発表され、班のまとまりも感じ取れたところです。

八月六日には、中央公民館で事後研修会が行われ、参加した団員に修了証が手渡されました。

今後、団員たちがこの研修の成果を家庭や学校、地域で発揮してくれることを期待します。

郷土の先人の偉業を学ぶ



▲島津越えを踏破する隊員



関ヶ原の合戦や木曾三川の宝曆治水事に尽した、薩摩義士の足跡をたどる関ヶ原戦跡踏破隊が、八月四日から四泊五日の日程で、岐阜県や三重県などの史跡を巡りました。

日置市は、岐阜県関ヶ原町や滋賀県多賀町と兄弟都市提携を結んでおり、夏休みを利用して毎年、踏破隊が訪問しています。五十一回目となった今年も、小学五年生から中学一年生の隊員八人と指導者四人が参加、郷土の先人の偉業を学びました。

島津家の家紋が入った真つ赤な陣羽織姿の一行は四日早朝伊

集院駅を出発し、昼過ぎには岐阜県関ヶ原町に到着。同町では、関ヶ原合戦で敵中突破を遂げた陣跡などを見学しました。

同県養老町や海津市では、宝曆治水事で犠牲となった薩摩義士について学びました。

三日目からは、関ヶ原合戦をしのび、島津越えの滋賀県多賀町までの約七十キロを踏破。道中で受けた温かいもてなしは、子どもたちにとって大きな励みになりました。また踏破隊に参加したことで郷土の先輩の生き方を学ぶ、自己錬磨の貴重な体験となりました。

歴史がつなぐ現代の縁

フレンドリーシップ・シティの岐阜県大垣市の青少年交流団一行（十二人）が、七月二十二日から四泊五日の日程で来訪。さまざまな体験を通して交流を深めました。

史跡めぐりでは、伊作島津家繁栄の歴史を追って亀丸城跡（伊作城）を見学。島津豊久公の墓（天昌寺跡）では、祭文を読み上げ、献花を行いました。

その後、島津義弘公のゆかりの徳重神社や城山公園（一宇治城跡）、小松帯刀の墓（園林寺跡）など吹上と大垣市上石津が交流をするに至った壮大な歴史の地をめぐるりました。



▲島津豊久公の墓（天昌寺跡）で、献花を行いました



▲吹上地域と上石津とのつながりについて学びました

急きよ決まったウミガメパトロールでは、ウミガメの産卵には出会えなかったものの夜の砂浜を歩きました。

また江口浜では海水浴を満喫。島津日新公（島津忠良）が広めたとされる伊作（いさく）和紙の紙すき体験も行い、子どもたちは自ら書いた紙でハガキを作り、早速自宅へと送りました。

一泊二日のホームステイでは、それぞれの受入家庭の子どもたちとあつという間に仲良くなり、楽しく交流ができました。関ヶ原合戦で島津豊久公が残した歴史のきずなは、交流によって現代に受け継がれています。

親善交流31年一層の友好図る

岐阜県関ヶ原町と日置市では、毎年交互にスポーツ少年団が訪問しています。

今年七月三十日から八月一日まで、伊集院ジュニアソフトテニススポーツ少年団の団員十一人と寺園廣行団長ほか引率者六人の計十七人が関ヶ原町を訪問しました。

子どもたちは、関ヶ原町歴史民俗資料館や島津義弘公陣地跡などを見学したことで、身をもって日置市と関ヶ原町との時代を

超えたつながりを感じたようでした。



スポーツ少年団交歓交流会に参加して

わたしは、伊集院ジュニアソフトテニススポーツ少年団の一員として日置市を代表し、交歓交流会に参加しました。

関ヶ原町に行く前までは少し心配でしたが、関ヶ原町の皆さんは、優しく親切ですぐに友達ができました。

バレーボール・剣道少年団との交流では、団発表やスイカ割り、カヌー体験などがあ

伊集院北中一年 日高美子さん
りました。

また歴史民俗資料館や木曾三水、治水神社、石田三成・島津義弘陣跡などを見学し、たくさんのお話を学び、関ヶ原町は歴史を感じさせる町だと思いました。

この交流会に参加して本当に良かったです。来年、関ヶ原剣道少年団の皆さんに会えることを楽しみにしています。

ALT 着任

日置市の新しい外国語指導助手（ALT）として、アメリカ

のニューヨーク州出身のローレンス・コリンさん（伊集院地域担当）と、イギリスのベッドフォードシャイヤー出身のシンプソン・ロビーさん（東市来地域担当）が着任し、四地域それぞれのALTがそろいました。

コリン先生は、二年間さつま町でALTとして子どもたちへの英語教育に携わった経験があり、ロビー先生は日本が初めてです。

八月十七日に行われた市内の小学五・六年生を対象とした一日丸ごと英語体験では、コリン先生もロビー先生も子どもたちに楽しい英語のゲームを教えています。（関連記事P11）子どもたちも二学期から、外国語活動の授業で教えてもらえることを大変楽しみにしているようでした。

新しく着任した二人のALTは、子どもたちに英語を教えることや日置市の皆さんとの交流を楽しみにしています。市内で見かけたら気軽に声を掛けてみてください。



東市来地域 ALT
SIMPSON ROBBIE DUNCAN 
シンプソン ロビー ダuncan さん

こんにちは。わたしはシンプソン・ロビーです。出身はイギリスのロンドンの近くです。今年22歳です。イギリスの南にある大学を今年卒業しました。

鹿児島に来て、まだ2週間ですが、ここは素晴らしいところだと思います。人も優しいし、食べるものもおいしいし、景色もきれいです。わたしはここに長くいて地域の一員となり、鹿児島のことをたくさん勉強したいです。

わたしの趣味は、サッカーと読書ですが、最近は野球に興味があります。イギリスでは野球をしませんので、日本にいる間に野球のこともたくさん知りたいです。

皆さん、どこかでわたしに会ったら、いつでも話しかけてください。そして、わたしに日本語を教えてください。よろしくお願いします。



伊集院地域 ALT
LAWRENCE COLIN JAMES 
ローレンス コリン ジェイムス さん

初めまして、ローレンス・コリンと申します。

2年前、アメリカのニューヨーク州から来ました。大学的时候、日本語と国際関係を学びました。卒業後、JETプログラムに申し込み、現在日本で英語の先生をしています。

わたしの趣味は読書と勉強と中距離走です。日本は本当にすてきな国だと思います。わたしは新しい経験を楽しみにしています。

伊集院町の生徒たちに英語を使って外国のおもしろさを知ってもらいたいと思います。一生懸命がんばります。皆さんよろしくお祈りします。

ALT 帰国

これまで伊集院地域で外国語指導助手（ALT）として二年

間勤めていただいた、カロン・ジュリア（アメリカのカリフォルニア州）先生が帰国しました。

ジュリア先生は、任期中に英語教育だけでなく、日本の文化も積極的に学ぼうと「着物の着付け」や「日本舞踊」の教室にも通っていました。

帰国するにあたり、これまでの経験を生かして、アメリカに帰ったら大学院へ入り、自分を高めていきたいと語ってくれました。今後のジュリア先生の活躍を期待したいと思います。



地区民の地域力で 長年の懸案を解決



温もりあふれる
共生・協働の地域づくり
15

妙円寺地区公民館

「街区表示板」設置事業の取り組みから

8月22日、妙円寺二区自治会の30周年記念イベントが盛大に開催されました。新興団地として30年を越え、現在でも新規入居者が続く妙円寺地区。わかりにくい団地という長年の懸案解決に向け、地区を挙げて取り組んだ「街区表示板」設置事業をご紹介します。

懸案は街のわかりにくさ

妙円寺団地を訪ねた人から「道に迷った」「家がわからない」という声が多くありました。

妙円寺地区にある8自治会の自治会長には、昼夜問わず「○さん宅」の問い合わせが寄せられ、その対応に苦慮してきま

した。妙円寺地区の長年の懸案は、まさにこの街のわかりにくさにあります。

鹿児島市などの市街地で見かける「□□○丁目△△」というプレート。このプレートは「街区表示板」と言われ、宅地開発などで新しくできた街の区分



街区表示板について市と意見交換を行いました

(街区)を明らかにするために設置されるものです。

地区振興計画で課題解決

この設置は、「住居表示に関する法律」で定められています。妙円寺団地は人口密度が基準より若干低かったため、法律上の市街地には該当しませんが、したがって、旧伊集院町でも、街区表示板の設置はなされませんでした。

しかし自治会長をはじめ、多くの地区民は「街区表示板」の設置を望んでいました。しかし、法的に根拠のない事業を取り組めず、設置が見送られてきまし

た。

平成20年度に市内26地区公民館で策定された「地区振興計画」。妙円寺地区では協議の結果、課題解決の優先順位をこの「街区表示板設置」を1位に位置付けました。

そして、平成21年度の「地域づくり振興基金による課題解決」で、迷わず「街区表示板」設置を選択し、都市計画課(現建設課都市計画係)などと協働で取り組むことになりました。協働を行う上でのポイントは「お互いを理解し、信頼すること」「役割分担を明確にすること」です。

通常、表示板の設置は、業者が全ての世帯を訪問し、承諾を得た上で施工します。しかし、それでは膨大な経費を要するため、自治会長が中心となつて、班長や会員と連携して、自治会ごとに承諾書を取りまとめました。



設置された街区表示板と案内板

きました。

市では、寄せられた承諾書を点検し全ての現場を調査。必要な場合は、直接訪問して意向を確認しました。

「30年間願っていたことが解決できた」と常深館長は安堵(あんど)の表情。地区振興計画に基づく課題を、地区民と市が共生・協働で解決しました。

「地域に親近感を感じるようになった」。街区表示板は地域の絆も高めています。

ぼくたちが 未来へつなぐ 青い森

第21回緑の少年団全国大会



全国の緑の少年団が一堂に会し、自然観察や登山などの体験活動を行う「第二十一回緑の少年団全国大会」が七月二十八日から三十日まで、青森県で開催され、鹿児島県代表として「伊集院町緑の少年団」が参加しました。

大会は「ぼくたちが 未来へつなぐ 青い森」をテーマに、全国緑の少年団連盟と青森県が共同で開催。全国各地の少年団から約六百六十人が集まり自然に触れました。



「伊集院町緑の少年団」は、青森県最大の湖である小川原湖で、カヌー体験やジミ採り体験を通じて、豊かな水資源や多種多様な生物体系と人々の営みについて理解を深めました。

触れ合いの大切さ実感

親子ふれあい教室が七月三十一日、日吉中央公民館で開催され七組の親子が参加しました。これは、市中央図書館日吉分館の主催で行われたもので、はじめに、お話「四十九曲がりの河童」の読み聞かせがありました。その後、サランラップの芯とひもを使って、一本のひもを引つ張ると、ほかのひもが縮む「不思議なカップ作り」に取り掛かりました。

子どもたちにとっては、少し難しい作業もありましたが、お母さんと協力しながら最後まで集中して取り組み、全員が作品を完成させました。作品が出来上がると子どもたちは歓声を上げ、早速作品を見せ合ったり、ひもを引つ張って遊んだりして楽しみました。参加者は、親子の触れ合いの大切さを実感しながら、夏休みの楽しい思い出をつくりました。



親子ふれあい教室

書くことは、こんなに楽しく、おもしろい

わくわく作文塾

感想を寄せてくれました。

「自分の学校でない先生に教えてもらえて、うれしかった」「ワークシートを使って書くことで作文の書き方が分かりやすかった」「先生と話をしながら書くことで、自分の思いつかなかったことを引き出してもらえて、良かった」

児童らは「わくわく作文塾」で作文の構想や記述、推敲(すいこう)の仕方を学び、書くことの楽しさを味わうことができました。



▲作文の書き方を寸劇で紹介する先生

夏休み期間中の八月七日と十九日、中央公民館と吹上中央公民館で「わくわく作文塾」が開催され、延べ二百人の児童と六十人の小学校教諭が参加しました。最初に作文の書き方を先生方が寸劇で紹介。自分の思いを文章につづっていく方法を学びました。その後、学年ごとに分かれ、先生の指導のもと、個別にワークシートをもとに一生懸命書き込んでいきました。参加した児童は、次のような



親子でふれあい、自然を楽しむ

神之川クリーン作戦&親子いかだ下り

「伊集院小おやじの会」(村岡達也会長)が、伊集院の市街地を流れる神之川で七月十八日「神之川クリーン作戦&親子いかだ下り」を実施しました。

当日は、先生やOB会員を含め四十四人が参加。午前中は、伊集院駅に近い「徳重橋」から上流数百メートルを腰まで水につかりながら軽トラック一台分のゴミを拾いました。

川原で準備した「炊き込みご飯」の昼食をおなかいっぱい食

べた後は、いよいよ川下り。市役所裏上流の「からすだ橋」から「徳重橋」までの約二キロを手づくりのいかだに親子で乗り込み下りました。

子どもたちは「転覆しそうになり大変だったけど、みんなゴールできて、とてもいい気持ち」と満面の笑み。また「いつまでも川下りができるような、きれいな川にしたい」と話し、自然の大切さを実感しながら親子のふれあいを楽しみました。



女性の視点で訴える

伊集院地域の市議と語る会

伊集院地域各種女性団体連合会主催の「議員と語る会」が八月九日、中央公民館で開催され、会員約五十人と伊集院地域の市議会議員九人が参加しました。

伊集院地域では初めての語る会。同連合会からは、地域活性化の問題や地デジに関する事など、十三項目の質問が出されました。

出席した議員から「定住促進を図りたい」「地デジの早めの対

応の呼びかけをしたい」との回答が得られ、参加者全員納得顔。

このほか、生ごみの減量や河川の汚れなど、女性ならではの視点からさまざまな意見や議論が展開され、予定時間を超えるほどでした。

参加者からは「直接話せる機会がもててよかった」「小さな疑問にも誠実に対応してくれた」との感想が聞かれ、有意義な会となりました。

会話やゲームで英語に親しむ

日置市一日丸ごと英語体験

「日置市一日丸ごと英語体験」が八月十七日、中央公民館で行われ、市内の児童(五、六年生)十九人が参加しました。

この事業は、児童と外国語指導助手(ALT)や国際交流員(CIR)、市内小学校教諭などが英語を使いながら一日を過ごしてみようというものです。

児童は、外国語指導助手や国際交流員の英語による説明を聞きながら、英語ゲームを楽しんだりアメリカのお菓子「ブラウ

ニー」作りにチャレンジしたりしました。

最初はおとなしかった子どもたちも、次第にうち解け、積極的に外国語指導助手や国際交流員とコミュニケーションをとることができるようになりました。

参加した児童は「もっと英語が話せるようになりたい」「来年もぜひ参加したい」などと話し、普段英語を話す機会の少ない子どもたちにとって、とても大切な時間となったようです。



地域の良さを再発見

親子レクリエーション



発見があつたようです。

参加した子どもたちは、校区の歴史や文化を直接体験し、あらためて地域の良さを見つめ直すことができました。また保護者も一緒に歩いて地域を回ったことで、新たな

伊集院小学校五年生とその保護者約百五十人が、夏休みに入つてすぐの七月二十四日、親子レクリエーションでウォークラリーを行いました。
はじめに、体育館で伊集院地域の歴史の学習を行いました。その後ウォークラリーの説明を受け、四、五人のグループごとに出発。図書館や徳重神社、妙円寺、伊集院駅などを巡りました。
十カ所のチェックポイントでは、その場所に関係するクイズを解きながら歩きました。クイズには難問もあり、親子で考え込んでいた場面も見られました。梅雨明けの強い日差しが照りつける中でしたが、約一時間かけて参加した全グループがゴールしました。



願いを込めて飾り付け

「七夕飾り配り」明信寺保育園



明信寺保育園の四・五歳児が八月二日、特別養護老人ホーム青松園を訪れ、自分たちで作った七夕飾りを届けました。
「いつまでも、お元気で過ごしてください」と子どもたちが手渡すと、入所者はうれしそうにほほ笑んでいました。
このほか、日置地区の施設や病院など十一カ所を訪問。色とりどりの七夕飾りを届けました。届けられた各施設を訪れた人



たちは、飾りを見上げて季節を感じたり足を止めて見入ったりして、楽しんでいました。

「明くれど閉ざす」22番まで軽快に暗唱

「妙円寺詣りの歌」の暗唱大会

地域に根付いている「妙円寺詣りの歌」の暗唱大会が八月二十日、伊集院地域の各地区公民館で行われました。

二十二番まで暗唱するコースに二百五十九人（九十九団体）が参加しました。

これは二十二番まである歌を覚えることで郷土に関心を持つてもらおうと伊集院地域の小学生を対象に行われている恒例行事。今年には二十二番まで暗唱する月色コースに五十八人、十五番まで暗唱する鳥頭坂コースに百十七人、団体で

今年で月色コース四回完唱の尾堂聖弥君（妙円寺小四年）は「一年生のときから出場していてスムーズに歌うことができ

た。六年生まで続けていきたい」と満足そうに話しました。

月色コース完唱者は、十月に開催される「妙円寺詣り行事大会」で歌を披露する予定です。



歌や踊りで地域を元気に

草原自治会夏祭り

草原自治会夏祭り（日吉）が八月七日、同自治会公民館近く



の広場で行われ、大勢の人でにぎわいました。

今年で二十五回目を迎えた祭りは、青壮年部を中心に約二週間にわたり舞台の準備に奔走、当日に備えました。

沿道には、子どもたちが作った灯笼（とうろう）が並び、地域内外から祭りを楽しみに訪れる人を迎えました。

祭りは子ども会の発表でスタート。日ごろ練習を重ねた婦人部の踊りが、祭りを盛り上げました。

伝統の踊り華やかに奉納

皆田太鼓踊り

猛暑が続く八月八日、二年ぶりに皆田太鼓踊りが霧島神社や大庭神社など五カ所で奉納されました。



この太鼓踊りは、皆田地区（東市来）に古くから伝わるもので、豊作や無病息災を祈願して毎年奉納されてい

ましたが、現在は後継者不足の影響もあり二年に一度奉納されています。

特の衣装に身を包んだ青壮年と今年新たに加わった小、中学生を含む三十人が地区内を練り歩き、踊りを披露。軽快

幻想的に火の粉舞う 送り火

北山の火振り

お盆の風物詩となっている「北山の火振り」が八月十五日、北山自治会（東市来）の納骨堂広場で行われました。

この「火振り」は、無縁仏供養のため毎年行われるお盆の伝統行事で、長さ五、六メートルもある青竹の先端にくくられた

たいまつに火がつけられ、力いっぱい南北に振り、精霊を送ります。

激しく振られるたいまつから舞い散る火の粉の様子は、精霊が夜空へ戻っていくかのように幻想的な雰囲気を作り出していました。

また同日は市制五周年を記念した花火の打ち上げもあり、会場につめかけた観客は、夏の夜空に彩られた迫力のある「火振り」と華やかな「花火」を楽しみました。



▲青松太鼓での演奏で盛り上がりました

また地元バンドのライブや吹上青松太鼓の演奏では、踊り出す人も。

最後はお楽しみ抽選会もあり、楽しい夏の一夜になりました。



▲息の合った踊りを披露する踊り子たち

な鉦（かね）の音に合わせ、汗を流して一心不乱に太鼓を打ち鳴らす勇壮な踊りに、見物人から大きな拍手が送られました。

初めて踊りを奉納した子どもたちは「疲れたけど無事に踊ることができてよかった。これからも続けていきたい」と安堵（あんど）した様子で話しました。

いつまでも元気で暮らせるように

元気もりもり健康教室

市高齢者クラブ伊集院支部による「元気もりもり健康教室」が八月五日、中央公民館で開催



され、会員三十八人が参加しました。

この健康教室は昨年、ウォーキングと体力測定の実施から、本年度も介護予防教室を継続、毎月一回各地域の高齢者クラブの支部ごとに八月から来年一月まで実施するものです。

一回目のこの日は、大西早苗会長が「健康で生き生きとした生活を送ることができるよう継続していくことが大切」とあいさつ。その後「いきいき体操」



▲体力測定を行う参加者

を行い、四種目の体力測定を実施しました。

健康教室では「いきいき体操」を取り入れて体操の普及を進めることで、高齢者クラブ活動の活性化や健康増進の取り組みを進めていきます。

県中学校総合体育大会で好成績

東市来中学校・伊集院北中学校

七月二十二日から二十九日まで行われた県中学校総合体育大会で優勝した東市来中野球部と

同中に決勝戦で敗れた伊集院北中野球部ほか卓球や陸上、柔道で好成績を残した生徒が宮路市長を表敬訪問しました。

市長は「九州大会では、どの競技も上位入賞を目指して頑張った」と大会に向けての意気込みを話しました。

伊集院北中野球部の井之上拓海君（三年）は「二年前の大会では、二回戦で負けてしまったので、今回はそれ以上の成績を残したい」。東市来中柔道部の奥蘭聖奈さん（二年）は「県大会では準優勝で悔しかった。九州大会ではベスト4に入りた



日ごろの団結力を披露

日置支部消防操法大会

消防団員の消防技術を競い合う「日置支部消防操法大会」が



八月一日、吹上浜公園で行われ、日置市といちき串木野市から十二チームが参加しました。

消防団員たちは、それぞれ放水や指揮などの役割に分かれ競技を開始。指揮役の合図で、手際よくホースを所定の位置まで伸ばすと、火元に見立てた「火」と書かれた板に向け、勢いよく放水しました。

機敏な動きに観客から歓声が上がリ、ポンプ車部門では、吹上方面団中央分団吹上部が一位に輝きました。

地域の川をきれいに！

下与倉親子会、EMグループ、よつばグループがEM（有用微生物群）団子の投入を七月十九日、下与倉自治会を流れる伊作川の第二与倉橋などで行いました。

これは、地域の川をきれいにしようといわれたもので、約一カ月前からEMグループのメンバーがEM活性液を培養した団子を準備。当日は約四十人が参加して、三百個の団子を伊作川に投げ入れました。

EMグループの大坪マサ子さんは「EMを使用した有機農業

EM団子投入



にも取り組んでいる。もともと多くの人にEMの良さを知ってほしい」と話しました。

将来の地域活性化、観光振興の発展に期待

江口浜荘跡地に宿泊・温泉施設を建設



▲左から片平裕康ガストフ社長、宮路高光市長、四元広行ア・ライズ社長、諏訪園隆坂本建設社長

江口浜荘跡地（東市米）に宿泊・温泉施設を建設する(株)ア・ライズ、(株)ガストフ、坂本建設(株)共同企業体の進出が決まり、七月三十日、市役所で立地協定のための調印式が行われました。

同企業体は、福祉施設の指定管理などを行うア・ライズ（鹿児島市）を代表とし、ホテル・旅館業を行うガストフ（鹿児島市）、建設業を行う坂本建設（鹿児島市）で構成されています。

宿泊・温泉施設の概要は、四階建て、百人程度の宿泊・宴会が可能なホテル棟と温泉のみの利用もできる浴場棟を計画しており、平成二十三年度中の開業を予定しています。

同企業体は、経営コンセプトに地域内雇用と地場産業の活用などを掲げており、将来の雇用の拡充や地域の活性化、観光振興の発展に大きな期待が寄せられます。

事件、絶対に風化させない！

吹上浜拉致事案広報活動

一九七八年に吹上浜で市川修一さんと増元るみ子さんが北朝鮮に拉致されて三十二年目を迎えた八月十一日、拉致現場周辺で広報活動が行われました。

この活動は事件を風化させないように、平成八年から鹿児島県警や沿岸防犯協力会、行政などが協力して取り組んでいるものです。

この日は、さつま湖休憩所前

チラシ配布を行い、増元るみ子さんの姉、平野フミ子さんや県警本部長、沿岸防犯協力会メンバーら約四十人が参加。事件当日の二人の写真を載せたチラシと、日置警察署員が作った風鈴三百個をドライバーらに配布しました。

平野さんは「高齢の母に何としても妹を会わせたい」と情報提供を呼びかけました。



清掃活動で視界スッキリ

東市来建栄会奉任作業



東市来建栄会（野間口秀世会長、会員十六団体）が七月十八日、遠見番山自然公園周辺の草

払いボランティア作業を実施しました。

この活動は毎年恒例となっており、今回で九回目。参加した会員らは真夏の強い日差しが照りつける中、清掃活動に汗を流しました。

また作業前には宮路市長も駆けつけ、会員を激励しました。生い茂っていた草がきれいに除去された道路は、光が差し込み明るく見通しのいい道路となりました。

真夏の作業に25人が汗

伊集院町建設業親交会

伊集院町建設業親交会（十一社加盟、西郷進一会長）が七月二十三日、梅雨時期の河川増水により橋脚にかかったゴミを取り除くボランティア作業を行いました。

この日の作業には二十五人が参加、原掛橋や大久保橋など六カ所の橋脚にかかった竹や木などのゴミを大型重機で除去。三時間余りの作業で、すっきりきれいになりました。

作業を終えた会員らは「これからボランティア活動を通じ



て、安心して暮らせる住みよい街づくり、環境づくりに貢献したい」と話しました。



みんなでひろげよう! 「元気な市民づくり運動」

9月は食生活改善普及月間です! 食生活を見直してみませんか



元気な市民づくり運動
イメージキャラクター
梅太郎

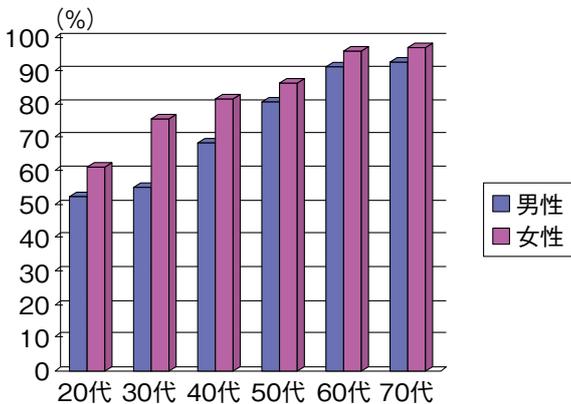
近年、生活習慣病が増加し、健康面における重要な課題となっています。日置市でも、死亡者のうち約6割の方が三大生活習慣病(がん・脳卒中・心臓病)で亡くなっています。「食欲の秋」ということで、つい飲み過ぎ・食べ過ぎになってしまいがちな季節ですが、ぜひこの機会に日ごろの生活習慣を振り返って、よりよく改善し、生活習慣病の発症や進行を防ぎましょう。



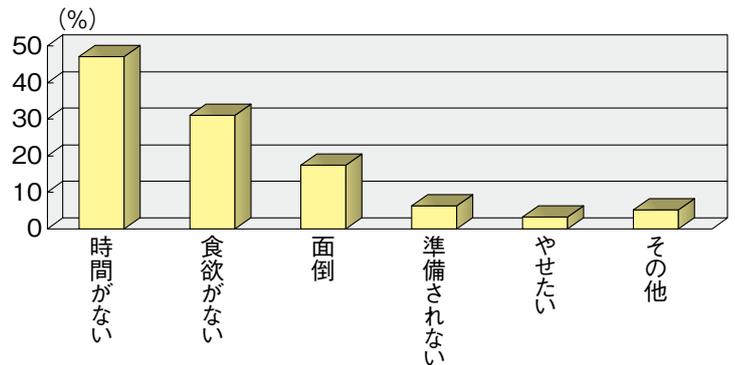
日置市の現状

- ・ 男性の5人に1人は肥満。特に40歳以上の男性に肥満が多い。
- ・ 20歳代男女、30歳代男性の3人に1人は毎日朝食を取っていない。
- ・ 30～50歳代の男性の3人に1人は夕食後に飲食している。
- ・ 酒の量が多い、やや多いと思っている男性は29.6%である。

【朝食をほとんど毎日食べる人の割合】
(日置市)



【朝食を食べない理由(複数回答可)】
(日置市)



(平成18年度健康実態調査より)

食生活指針

- ① 食事を楽しみましょう
- ② 1日の食事のリズムから、健やかな生活リズムを
- ③ 主食・主菜・副菜を基本に、食事のバランスを
- ④ ごはんなどの穀類をしっかり
- ⑤ 野菜・果物、牛乳・乳製品、豆類、魚なども組み合わせて
- ⑥ 食塩や脂肪は控えめに
- ⑦ 適正体重を知り、日々の活動に見合った食事量を
- ⑧ 食文化や地域の産物を生かし、ときには新しい料理も
- ⑨ 調理や保存を上手にして無駄や廃棄を少なく
- ⑩ 自分の食生活を見直してみましょう

☆健康実態調査にご協力をお願いします! ☆

元気な市民づくり運動推進計画の中間評価に伴い、健康実態調査を行います。対象者には、9月下旬に調査票が届きます。10月中旬に地域の保健推進員さんが回収に伺いますので、ご協力をお願いします。



このコーナーに掲載を希望されない方は手続きのときに、お申し出ください。



8月受付分 (敬称略)

伊集院地域

(出生児)	(保護者)	(自治会)
西郷 透真 健一	中福良	
山下 結衣 征史郎	妙円寺一区	
弓指 篤斗 拓陽	上土橋	
下笠 寧々 和之	腰	
末吉 奏斗 浩之	上之馬場	
齊藤 優月 忍	清藤	
久保 茉央 秀紀	妙円寺九区	
有留 維吹 満	天神馬場	
茶園 悠斗 秀人	猪鹿倉	
坂元 提樹 将也	妙円寺九区	
四元 七星 浩人	猪鹿倉	
徳永 星奈 健大	瀬戸内	
鎌田 絆那 大輔	瀬戸内	
牧 莉乃 浩基	朝日ヶ丘	
西岡 昊輝 哲郎	猪鹿倉	
馬場 美来 省吾	妙円寺五区	

東市来地域

(出生児)	(保護者)	(自治会)
銚之原 英汰 竜一	堀内	
迫田 結愛 琴美	杉之迫	
江口 日陽 孝	中央	
鶴田 悠斗 真一郎	堀内	
丸田 敬久 忠明	元湯	
前田 暖登 裕貴	杉之迫	



8月受付分 (敬称略)

伊集院地域

(故人)	(享年)	(自治会)
久保フヅエ	78	野田
和田 勇藏	86	つつじヶ丘二区
寺田日出雄	70	向江町
假屋ヨシ子	82	下土橋
尾堂 榮文	72	上土橋
久保 貞子	87	中福良
福重 健一	60	天神馬場
地頭江ヒデ	88	野田

東市来地域

(故人)	(享年)	(自治会)
平松 廣吉	100	中伊作田
川畑 ミキ	99	田代
下田平成男	82	田之湯
白井 フサ	97	麓上
小屋敷テル	87	南神ノ川
折田 三郎	83	駅前
新村 ノブ	86	田代
本村 サキ	69	麓上
谷口スミエ	86	上伊作田
北園 アキ	90	大平
桑木野ヶサキク	103	高山
鮫島 ハマ	86	田代
迫尚	87	田之湯

日吉地域

(出生児)	(保護者)	(自治会)
井尻 翔優 秀一	草原	
増田 彩音 広美	草原	

吹上地域

(出生児)	(保護者)	(自治会)
肥後龍之介	さやか	小永吉

日吉地域

(故人)	(享年)	(自治会)
日高 善男	56	帆之港
上東 貞光	76	日置麓
久保 勲一	71	柿の谷
分部 満義	85	南区
田村 信	85	八幡
山之内サチ子	92	青松園
曾山 クミ	92	毘沙門
妙見 祝	81	南区
上内 秀子	78	南区

吹上地域

(故人)	(享年)	(自治会)
内村 洋子	62	下中之里
寺原日出子	78	野首
今村 安雄	81	今観龍
永野 勲	89	湯之元
奥ミツ子	86	下中之里
地頭所 貞	88	下和田
川原 静男	85	下与倉
寺原 ヒデ	80	赤仁田
内田 ノブ	101	小野浜
宇都チカエ	91	窪田

※訂正とおわび
 広報ひおき8月号P17「戸籍の窓」の記事中に誤りがありました。次のおり訂正しておわびします。
 (敬称略)
 有島 保 (95歳)
 有島 保 (75歳)

米トレーサビリティ制度の導入が始まります

米トレーサビリティ法(米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律)が制定され、本年10月から、米、米加工品の生産者、加工・製造業者、流通業者、小売業者、外食店での取引などの記録の作成・保存が義務付けられます。

また平成23年7月からは、産地情報伝達が義務付けられます。

【対象品目】

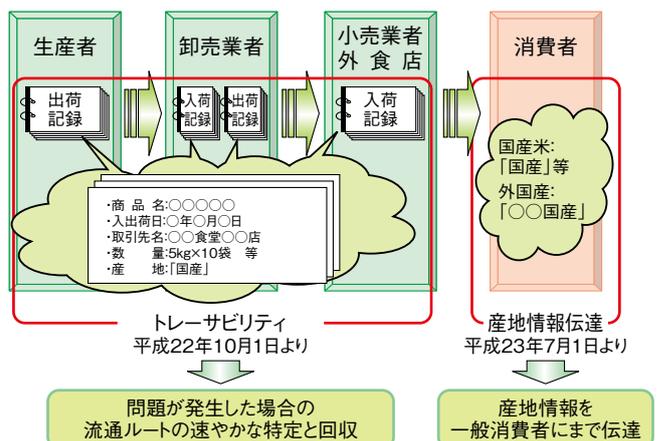
米穀(玄米・精米など)、米粉や米麴などの中間原材料、米飯類、もち、だんご、米菓、清酒、単式蒸留焼酎、みりん

【対象事業者】

生産者を含め、対象品目となる米・米加工品の販売、輸入、加工、製造または提供の事業(飲食業など)を行うすべての事業者

【お問い合わせ先】

本庁農林水産課 TEL099-273-2111(内線1153)
 九州農政局鹿児島農政事務所計画課
 TEL099-222-0121





くきどめ ひでゆき
久木留 秀行さん [55歳]

東市来町湯田 (赤崎自治会)

●江口漁業協同組合長

仲間たちとともに豊かな海を守っていききたい

江口漁港を中心に、岸から約二十キロまでの沖合で漁をしている久木留さん。小さいころから漁を手伝い、海で働く父親の背中を見て育ちました。後を継いで三十六年がたち、現在は漁協の組合長を務めています。

漁協では、子どもたちに自然の大切さを知ってもらえるようにヒラメやタイの稚魚の放流をしたり、海底に漁礁を設置したりしています。

稚魚放流は東市来地域以外の小学校にも呼びかけ、多くの子どもたちに参加してもらえるようになりました。「ヒラメやタイの放流が、子どもたちにとって海や環境問題について考えるきっかけになれば、これほどうれしいことはない」と話し笑顔をみせます。

また「きれいな海を仲間とともに伝えていききたい」と漁に出て網にゴミがかかると必ず持ち帰るように取り組む傍ら、資源管理のための休漁日も設けました。「ふるさと港祭り」は今年で十八回を数え、始めたころと比べると、だいぶ規模が大きくなりました。今では地域の方と実行委員会を組織して運営しています。「祭りの中でも『魚のつかみ捕り大会』は、毎年大人気。鮮魚を確保するために(祭りの)二日前から準備している」と話し、地域活性化にも取り組んでいます。

そんな中での楽しみは、漁協仲間と行くゴルフ。「仕事に対して、仕事以外に対しても仲間と楽しめる」と話します。

「これからも子どもたちをはじめ、大勢の方々に海の恵みを味わってもらえるように、若い人に自分の持っている技術を伝え育てていききたいです」



こうすけ
山下 滉介くん (2歳)

父 和清さん 母 緑さん
(日吉町日置)

■おかあさんから

乗り物が大好きな滉ちゃんにはトラックを見ると大喜びします。たくましく大きく育ってね。



かずてる
川窪 一彰くん (2歳3カ月)

父 利幸さん 母 志穂子さん
(日吉町日置)

■おかあさんから

最近、お兄ちゃんのまねをよくする、かずてるです。優しく元気に育ってほしいです。

わんぱく 直送便

元気のある
お子さんの写真を
募集しています。

市内に在住の6歳以下のお子さん
①氏名 ②生年月日 ③保護者氏名 ④お子さんの近況 ⑤お子さんへのコメント
⑥広報へのご意見 ⑥連絡先を添えて、市役所総務企画部企画課(住所は
末へ)までお送りください。



ギャラリー 私の作品展

『生け花』

はげき 櫛木 ようこ 洋子さん(63歳) 吹上町和田

友達に誘われて始めた生け花は、今年で6年目になります。今ではすっかり生け花の魅力に引き込まれました。「切り取った花を器に生けて、自然の美しさや花の美しさを観賞すると、心が癒される」と櫛木さん。「今までは、何気なく見過ごしていた庭や道端の草花も『生け花』にしたらどう変わるだろうと思うようになった」と笑顔で話します。また「これらの花を、自分の思い描いたイメージ通りに生けてみたい」とも。5月には、吹上砂丘荘で開かれた生け花展に出品しました。「これからも花や人との出会いを楽しみながら、続けていきたいですね」



ウォッチまちな文化財 62

島津家久と梅天寺跡（戦国島津氏⑦）

これまで紹介した島津4兄弟の四男が島津家久（1547～1587）です。最近NHKの番組でも大きく取り上げられました。家久は島津本家15代当主貴久の子として現在の吹上地域で生まれたとされています。兄の16代当主義久や義弘に従い、三州統一（薩摩・大隅・日向）や九州進攻で大いに活躍しました。

家久の功績で最も知られているのが、天正12年（1584）に、肥前国（佐賀・長崎県一帯）を支配していた龍造寺氏と、島原で戦ったことです。一説では、龍造寺軍が2万5千人、島津軍が3千であったとされています。人数で劣る家久の軍が、巧みな戦術で龍造寺の当主を討ち取り、勝利しました。

家久は、天正3年（1575）に京都に行っています。家久は多くの文化人や有力者と会いましたが、特筆すべきは、織田信長を目撃したことと、明智光秀に招かれ歓迎を受けたことです。その貴重な記録は『上京日記』として伝えられています。

家久は4兄弟で一番先に、41歳で亡くなりました。病死とされています。家久の墓は永吉地区にある梅天寺跡にあります。

Access

車で、本庁から20分、吹上支所から10分



梅天寺跡（中央が家久の墓）



動物を助ける仕事がしたい

伊集院北小学校

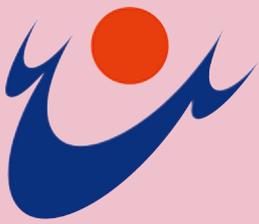
六年

石神

愛麗さん

私は小さいころから動物が大好き。動物が好きなので、高学年では、飼育委員会に入りました。ウサギは鼻をピクピクさせて可愛いし、ニワトリは強いところや姿がかっこいいところが好きです。低学年のころ、子犬を飼いました。飼ってすぐのころ、学校から帰ると子犬は泡を吐いてぐったりしていました。私にはどうすることもできなくて泣きそうになりました。心配で動物病院に連れて行き

ました。すると、獣医さんが、「低血糖ですね」と診断しました。砂糖水を注射器で飲ませるとあっという間に元気になりました。それから私にもできることをしました。注射器でミルクを飲ませたり、静かに寝かせたりしました。そのとき、私も獣医になってこういう動物たちを助けられる仕事ができたらいいなと思いました。それならいろいろな動物に会えるし、大好きな動物を助けることもできるからです。



鹿児島県日置市

市の人口(住民基本台帳)

総人口	51,688人 (△56)
男	24,232人 (△20)
女	27,456人 (△36)
世帯数	22,552 (△9)

9月1日現在()は前月比

東市来地域	12,680人
伊集院地域	24,548人
日吉地域	5,463人
吹上地域	8,997人

市の面積 253.06km²

今月の表紙



「次世代の踊り手を加えて 伝統を引き継ぐ」

地元郷土芸能を引き継ぐ新たな力を加え、皆田地域で披露された太鼓踊り。猛暑にも負けない力強い鉦(かね)と太鼓の音が、一面緑に広がった田園に響き渡りました。

「皆田太鼓踊り」(東市来) P 13 関連記事

No.65 平成22年9月号

発行/日置市役所 総務企画部企画課

〒899-2592 日置市伊集院町郡一丁目100番地

TEL 099 (273) 2111
FAX 099 (273) 3063

東市来支所
TEL 099 (274) 2111

日吉支所
TEL 099 (292) 2111

吹上支所
TEL 099 (296) 2111

<http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

東市来支所まで約三キロ、湯之元の中心街まで約二キロに位置する皆田地区は、四自治会(皆田西、皆田東、丸牧、大平)で構成され、平成二十二年九月一日現在で二百五十六世帯、六百三人が暮らしています。



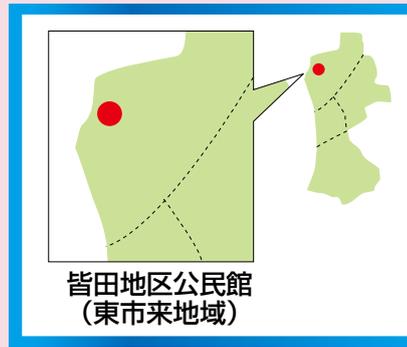
▲地区住民が一堂に会する運動会



▲初めて開催した夏祭りは、大盛況でした

地区の運動会はアンケートの中で、皆田小学校が閉校になり、一堂に集まる機会が少なくなってきたため、ぜひ実施してほしいとの意見が多く寄せられたことから開催し、今年で三回目です。また運動会では、健康づくり活動の一環として「健康指導講話」も行っています。

自然が多く残り生活環境にも恵まれていく皆田地区。少子高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も多くなっている中、これからは連絡網の強化を図り、だれもが安心して生活できる地域にしていきたいです。



皆田地区公民館 (東市来地域)

わが地域



▲下茂孝一館長

皆田地区公民館(東市来地域) みんなで築こう元氣あふれる皆田の郷

平成二十年四月に皆田地区公民館を設立し、運営委員会や各専門部を中心に話し合いを重ねながら活動しています。地区振興計画は、地区公民館アンケートを実施し、これを基に現状を把握、今後の課題、解決方法などについて話し合い、策定しました。



▲後継者の育成のため毎年練習する伝統の太鼓踊り

地区の運動会はアンケートの中で、皆田小学校が閉校になり、一堂に集まる機会が少なくなってきたため、ぜひ実施してほしいとの意見が多く寄せられたことから開催し、今年で三回目です。また運動会では、健康づくり活動の一環として「健康指導講話」も行っています。

火などがあり、大勢の人でにぎわいました。敬老会も今年から地区公民館で開催することになっています。これらのイベントは、これからも試行錯誤を重ねながら、地域に根付くようにしていきたいかなければなりません。地域の伝統行事は、棒踊りと太鼓踊りがあります。棒踊りは毎年五月に伊勢神社に奉納し、太鼓踊りは、二年おきに霧島神社や大庭神社などに奉納しています。太鼓踊り保存会では、奉納のない年も後継者の育成を目的に、小学生が夏休み中に練習に励みます。これらの伝統行事は、絶やすことなく継承していかねければならないと思っています。(関連記事P13)